

同窓会の事業

2023年10月作成

同窓会活動	主委員	2023年度活動実績（2022年10月～2023年9月）	2024年度活動計画（2023年10月～2024年9月）
ビッグデータ研究会	井上	コロナのため活動実績なし。Zoom等での活動も行わなかった。	リアルでの活動をメインに行っていく。現役の学生との関係が3年以上途絶えたため、矢入先生に新たに紹介してもらう。また、これまでに参加してくれた学生で社会人になった人にも声をかける。
IoT&AI研究会	平井 鴨川	4部会の活動を横断的に推進し、CIVICTECH活動、産学官公民連携活動にて、PRJ全体が戦略的に社会問題を解決する段階に入った。書籍出版、研究会・フォーラム開催。コンペ応募等実施。	活動をアジアグローバルに展開し、ミリ波応用や大規模自然言語処理を取り込んだ知的摘生産性を爆上げするPRJを推進し、次世代リーダー型人材発事業体制を構築していく。
モビリティ研究会	宇野 濱畑	モビリティの未来を上智の文理融合視点で検討。リモート月例、コンパクトシティたる谷根千訪問、輪講、講演会の共有。論点はEV、バッテリー、自動運転、ソフトウェア、プラットフォーム、ビジネスモデル、国際競争。	手を動かしモビリティを含めたビッグピクチャを描く。リモート月例、外出イベント、輪講等を通じ、リアルビジネスも念頭に検討継続および人的ネットワーク拡大。次回ASFのイベント企画化とアウトプットを目指す。
ゴルフ会	佐伯 伊藤	会員相互の親睦を図るためゴルフコンペ「第11回ソフィア理工カップ」を開催しました。 2023年4月13日、4組16名にて川越CCで開催	①次の通りゴルフコンペを計画する ・例年通りの4月の第2木曜日の2024年4月11日(木)予定 ・会場については昨年度予定の川越CC(8組予約済)または新武蔵丘GCを予定 ②例年同様費用計上はゼロ ③告知の時期及び実施形式については昨年同様としてメーリングリストに登録されている方についてはDMを発信し、一般募集については理工学部同窓会のポータルにて行う ④ここ3年程、川越CCにて開催したがやや難易度が高い為、もう少し易しいゴルフ場での開催。場所として新武蔵丘GCを検討したい。 但し、予約が1月1日からの為、予約ができるかは未定。
写真を楽しむ会	津川	2023年のASF「理系ソフィアンのつどい」を機にこの会を立ち上げ、会員は一人であったもののプロジェクターを使用し100枚強の写真を展示した。後日、会員が一人加わり今後の活動方法などの打合せを実施。	まずは撮影会をする事によりお互いの写真スタイルを理解し、2024年ASF「理系ソフィアンのつどい」にて写真展示を目指す。また、会員増強の為、理工学部ブログに定期的に作品をアップデートしていく。
企業経営者の会	中山	経営者の会博士奨学金制度のもとに3人目の機械専攻のD1生に決定。京セラ谷本社長が経営者の会にメンバーとして参加した。	来年のASFに参加する。

メールニュース ホームページ (情報発信)	岸本 阿見	2021年度に編集チームを正式設置して、四半期毎に同窓会会員にメール発信すると共にホームページにも掲載して、同窓会の活動情報を共有化することを決定し、計画通り配信を継続し、2022年度も所定の4回(秋・冬・春・夏号)の配信を実施した。	2024年度も基本的には従来方針を継続して4回/年の配信を実施する計画である。 特に、同窓会事業・活動状況の情報発信を一層充実化すると共に大学・理工学部からの情報発信も考慮しながら、ホームページと効果的にリンクさせて同窓会会員とのコミュニケーションツールとしての活用も図る。
理系ソフィアのつどい	津川 矢部 佐伯	2023年のASF「理系ソフィアのつどい」は各理事の協力が有り、5年振りの懇親会開催も何とか無事に乗り切れた。しかしながら作成資料にミスが発生したりお願いした役割分担が適正ではなかったことなど混乱もあった。	2024年度の基本路線は2023年度と同様とする。ただ2023年の反省を踏まえまずは役割分担を決め各理事に念押しして役割を着実に認識して貰う。更に「理系ソフィアのつどい」を進めて行く上で担当理事を3人とし各役割を依頼した作業の準備状況の確認を図って行く。
同窓生のネットワーク	川端	2024年節目年の各祝対象者(2025年2月祝典)へ前年度同様2023年夏に郵送案内を行った。 宛先が不明になることの多い卒業1年目と7年目の会員へ住所登録のお願いと同窓会活動周知のための郵送を行った。 卒業4年目の会員を対象に同窓会活動への要望のアンケートを実施、その中で希望の多かった交流会の場として若手理工ソフィアの集いを実施し	2025年節目年の各祝対象者(2026年2月祝典)へ2023年度と同様に実施していく。 あらたに、終身会費納入者を含め広く一般会員に会員大会への参加を促し、その交流の機会を組み込む。 また、若手理工ソフィアの集いについては、対象を卒業後1~10年目に範囲を広げ、会員の交流を促進していく。

学生支援事業	主委員	2023年度活動実績(2022年10月~2023年9月)	2024年度活動計画(2023年10月~2024年9月)
関係講座 つくるI	武藤 黒江	連携講座とは理工学部同窓会により講師として卒業生を推薦し、理工学部により実施される全学共通のキャリア形成科目である。「つくるI」(秋学期)は卒業生によるキャリア形成に関する事や仕事における経験談等を1人1コマ(100分)ずつ講義する科目である。2023年度についても講義12回分で12名の卒業生を講師として紹介した。	最近の連携講座でも、社会の動きに伴ってスタートアップ、ベンチャーキャピタル、AIなどを始めとする大きな展開を実際に担っている卒業生が講師になるケースが見られる。これらの分野については学生達は知ってはいても、中々自分のこととして捉えるまでにはいっていないと見受けられる。2024年度ではこのような分野もさらに取り込めるように広い範囲で卒業生を見つけられるようにできればと考える。
関係講座 つくるII	武藤 竹原	「つくるII」(秋学期)は協力企業を紹介し、PBL方式によりグループ作業を通して授業を行う全学共通科目である。協力会社が、最初に、実際にかかえる問題点を説明して、学生達はグループ討論により解決策を見出そうとする。最後、グループ毎の結論をプレゼンテーションするというスタイルである。今年度は株式会社キッツと株式会社FRONTEOの2社様にご協力を頂いた。	2024年度についても2023年度と同様に、株式会社キッツと株式会社FRONTEOの2社様のご協力を頂き授業を行っていく予定である。

<p>関係講座 Technology & Innovation</p>	<p>武藤近藤</p>	<p>「Technology & Innovation」（春学期）は理工学部英語コースの留学生向けに行っている科目である。「つくるI」のキャリア形成的内容を留学生にも提供し、同時に専門的な内容も加えた連携講座である。数名の講師が複数コマずつ担当して英語により講義を行う。本年度は4名の講師を紹介し、講師1名につき3コマずつの集中講義を行った。</p>	<p>2024年度は2023年度と同じ講師の方々をお願いする。 タイトルは次の通り ○ Innovation and Regulation in the field of Medical Devices ○ Next generation mobility: technology, deployment and rule making ○ The Basis for Space Technology and Business ○ How to become a technology architect in the IT industry</p>
<p>理工系 OBOG懇談会</p>	<p>武藤川端</p>	<p>入社してまだ4～5年の卒業生がリクルータとしてではなく先輩というスタンスで学生と交流し、より自由な立場から質疑応答を行うものである。理工学部同窓会としては、この交流会に協力してもらえる卒業生に依頼していた。しかし、コロナ禍により実施が難しくなったり、学生の就職の形態が変わり、ここ数年中止している。</p>	<p>2024年度は新たにこのような交流会の経験が豊かな理事を向かえ、再開する可能性を探れるかと考えている。</p>
<p>奨学金 <同窓会奨学基金等を原資として></p>	<p>武藤澁谷高井</p>	<p>理工学部の学生が希望すれば参加できる春期（ノースカロライナ大学シャーロット校）と夏期（カリフォルニア大学デーヴィス校）で行う短期海外研修（英語）の費用の一部支援のための奨学金である。夏期は4名に奨学金（1人につき8万円）が給付された。 また、早期卒業制度を利用して博士課程への進学を目指し、短期間で学位を取得しようとする学生に給付する「早期卒業制度を利用した博士課程進学支援」奨学金については前年度に引き続き1名に50万円が給付された。</p>	<p>2024年度についても、奨学金は短期海外研修（英語）と早期卒業制度を利用した博士課程への進学支援の2つを柱に学生支援を行っていく。今年度に引き続きこの奨学金に応募資格のある学生もおり、上智大学出身の博士課程の学生を増やすべく、学生支援を続ける予定。</p>

IoT&AI研究会 WG

<p>WG活動</p>	<p>主委員</p>	<p>2023年度活動実績（2022年10月～2023年9月）</p>	<p>2024年度活動計画（2023年10月～2024年9月）</p>
-------------	------------	-------------------------------------	-------------------------------------

<p>脳・心と智の融合 研究WG</p>	<p>松井</p>	<p>1. 東北大学目黒研究室、連携企業との共同研究体制の構築。マーズ/東海光機等等と技術交流。 2. 玉川大塚田チームとの技術交流、ASF2022対話フォーラム主宰や研究会に参加。 3. ミリ波応用プロト製品の次年度事業化に向けた調査、基本アーキテクチャの調査研究の実施。 4. アジアグローバルインターンシップ事業の企画推進とアライアンス企業、大学との協議。</p>	<p>1. 脳磁計PRJ-社団法人の体制見直し。PRJファイナンスの情宣活動に注力。東北大目黒先生逝去に伴う体制見直し、玉川大学塚田先生、マーズなど等の協働研究体制再構築。 2. 上智大の高尾研究室のノンヘリウム型強磁界電磁シールドの応用可能性を調査研究。 3. 松井式ミリ波トランシーバーモデルの原理実験モデル→製品プロト化に向けた体制構築。 4. サードパーティ提供のミリ波センサーによる製品プロト開発とマーケティング活動の実施。クラウドファンディングの利用と、他のWGグループと連携した認知症、コロナ禍後遺症の研究</p>
<p>Sophia Sound & ASTEM研究WG</p>	<p>鴨川</p>	<p>1. ASF2023フォーラムや、理事会メンバー、集合知研究会等でエッジコンピューティングとクラウドで行うマルチエージェント型の心の計算アーキテクチャの研究活動を推進。 2. 上記関連の書籍出版と学会発表と学会・研究会活動を実施。 3. 全脳アーキテクチャ研究グループや同分野の半導体、ソフト開発に関する調査研究の実施。 4. ミリ波応用をアジアグローバルインターンシップ事業で展開する為の開発計画を作成。</p>	<p>1. ASF2024ディスカッションフォーラム開催。21世紀型人財育成に関するフォーラム開催。 2. ミリ波応用の製品プロトの開発と提示、商品化事業者とPRJファイナンス活動。 3. 田中先生の脳型コンピュータアーキテクチャモデルのMATLABによるシミュレーション展開。 4. 同分野に於けるカリキュラム開発とベトナムを始めとするアジアグローバル展開の中で、上流設計にAIを導入、自動コーディングなど知生産性爆上げに関する新PRJを発足させる。</p>
<p>Open Innovation 研究WG</p>	<p>鴨川</p>	<p>1. LODチャレンジ2022に応募。東京都のコロナ感染関連オープンデータの時系列分析を実施。 2. 日本経済復活の会、マクロ経済シミュレーションPRJリーダー就任。PRJデザインと運営を支援。 3. 日経NEEDSのデータセットとシミュレーション結果を入手。マクロミクロ統合シミュレーションと公共通貨による財政立て直しと国の「新機軸成長戦略」に関する 調査研究と戦略立案を推進。 4. 知的生産性向上を爆上げし、社会問題解決を行う協働組的のスタートアップを支援する仮想空間型グループウェアによるコンカレント並列処理（Web3-DAO）Dev Opsの調査研究実施。</p>	<p>1. LODチャレンジ2024コンペ応募。テーマはコロナ問題、予防医療介護関連等多数。 2. 日本経済復活の会関連、刊行物PRJ,映像情報発信PRJにて情宣・告知活動を実施。 3. 様々なシミュレーション開発手法をドキュメント化し、教材として提供を行う。 4. chatGPT始め大規模自然言語処理と数理モデルの結合を行い、情報・数理・コミュニケーションデザインの手法を体系化し、「先生支援システム」のバージョンアップを行い、状況認識を人間の様に出来る進化学習型AIのプロトモデルを開発する。</p>

<p>SDGs ×新社会システム&サービスコミュニケーションOSデザイン研究WG</p>	<p>鴨川</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 論語と算盤で考えるSDGs連携PRJの社団法人化を支援、事務局メンバーとして参加し、本WGの活動実施拠点を設置。 2. 「地域公共通貨ー根源からお金について考える」テーマでトークセッションにてレクチャーを実施。 3. 人ービジネス組織ー社会を俯瞰し社会問題解決に参画することで自己実現を図るPRJを支援。 4. ベーシックインカム学会分科会に参加、ベーシックインカム、マクロ経済学など、社会問題に関する勉強会にて新社会システムOSのデザイン要件の作成に協力。シミュレーションプロジェクトの基礎データを収集。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. SDGs関連のメンバー3000人、地域通貨umoのメンバー6000人のメンバーによる新経済圏の実験コミュニティを設立。そのビジネスモデリングと事業試行を行う。 2. 複数のモデルPRJの運営開始。Site65 PRJ(産業プロフェッサー制度)、健康経営PRJ(介護離職ゼロ化)、新社会システムOSのアプリケーション(食料自給、安全保障、予防医療介護、ビヨンドコロナ、修復医療、唯意識学、ヨ・ニドラー瞑想など多数テーマあり)。 3. 活動成果と過程のコンテンツ化、情報発信ーシビルメディアチャネルの立ち上げ。
--	-----------	---	--